

NEWS LETTER Plus.

働き方改革に取り組む医療機関 好事例

今回は医療法人 林病院 医療情報課 杉原博司さんに『**スタッフが働きやすい動線の実現とコミュニケーション強化のための空間づくり～病院建替えによる勤務環境改善の取り組み～**』についてお話をお伺いしました。

名称 医療法人 林病院
 理念 わたしたちはあなたとともに
 納得し安心してうけられる
 質の高い医療をめざします
 所在地 福井県越前市府中1-3-5
 設立 大正2年11月 診療科 18科
 病床数 206床 職員数 401名
 入院料 一般急性期入院料4 1病棟
 地域包括ケア病棟入院料2 3病棟
 回復期リハビリテーション病棟入院料3 1病棟



旧病院での課題

1969年に建設した旧病院は、1982年、2003年の2度にわたる増築工事によって3棟を連結した造りとなりました。それらは病院の病床増床に繋がった反面、患者さまや職員の動線を長くし、交差させてしまうという課題が生じました。また、3つの病棟はそれぞれ2つの棟に跨がっており、1つの病棟は1つの棟に収まってはいるものの、2つのフロアに分かれて配置されていました。そのため、夜勤帯の看護要員は動線が長くなり、転倒・転落のリスクがある患者さまの部屋割りにについても苦慮していました。また、ナースステーションと処置室が狭いにも拘らず、病院機能評価においては“建替えによる改善”ということで評価対象外とされていました。



そこで病院の建替えを機に、院長をトップとした経営陣たちは「**スタッフが働きやすい職場環境の実現**」を宣言し、全職員向けに発信しました。

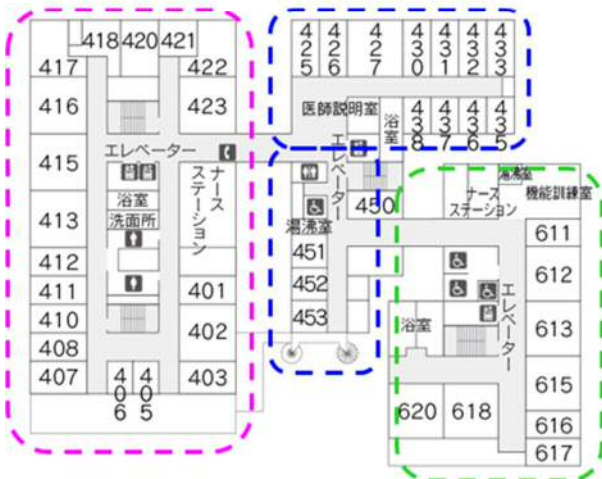
～ 沿 革 ～

- 1913年 私立林病院創設
- 1951年 医療法人林病院に改組
病床数55床
- 1969年 病院新築 RC造地下1階地上5階建
病床数165床
- 1982年 B棟増築(合計220床)
- 1992年 結核病床4床廃止(一般病床216床)
- 2003年 C棟増築(一般病床216床)
回復期リハビリテーション病床(50床)開設
(一般病床166床)
- 2006年 日本医療機能評価機構病院機能評価認定(ver.4)
- 2011年 日本医療機能評価機構病院機能評価認定更新(ver.6)
- 2013年 創立100周年を迎える
ロボットスーツHAL導入
- 2016年 日本医療機能評価機構病院機能評価認定更新(3rd, ver1.1)
- 2019年 7月 新病院にて診療開始(一般病床206床)

取組みの経緯

今回の建替えを前に、まずは病院長指示による「新築準備室」を発足させました。コンセプトは「**限られたスペースの中で、効率よく働ける動線、レイアウトの実現**」です。そのために、公募段階から各部署の要望書を取り纏めて提出してもらい、公募選定後においても設計・施工会社の設計チームと綿密な打ち合わせを重ね、また、各部署との協議を何度も繰り返しながら建設に移行しました。引き渡し後も細かな調整を行い、新病院移転へようやくこぎ着けました。各部署からの要望どおりの病院を建てるのが最も良いことはわかっていますが、建築費用や用地の制限もあるため、新築準備室は最大公約数で収めることに苦慮しました。職員の働きやすさを考えた動線の短縮や動線交差の低減を目標としたレイアウトは慣れるまで戸惑いもありましたが、現在は使いやすい環境として馴染んでいます。

3つの棟からなる旧病院のレイアウト



シンプルな構成となった新病院のレイアウト



取組み後の現況

新病院は1フロアに配置出来る病床数が45床までという制約があり、看護単位を4病棟から5病棟体制へ変更しました。これにより、これまで夜勤帯において最大60床の病棟を看護職員2名・看護補助者1名で管理していましたが、新病院では1病棟当たり40床となり、夜勤帯の負担は患者数ベースで30%の軽減になりました。旧病院で課題だった**病棟の動線はシンプルにまとめられ、旧病院に比べて移動のストレスが半減し、効率的な動作が可能**になりました。また、「**ナースステーション**」を「**スタッフステーション**」に変更し、**多職種の職員によるコミュニケーションを深められる場**となりました。



病棟正面：病棟は開放的なスタッフステーションとシンプルなレイアウトで構成されている



病棟背面：通路は口の字になっており、行止りがない、シンプルな動線です

コミュニケーションが強化された 開放的な「共有フロアー」

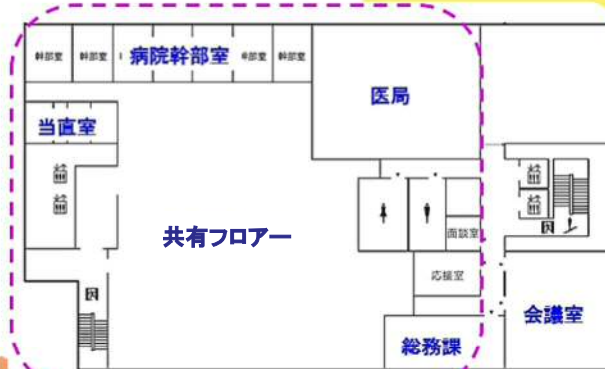
「共有フロアー」のオープンスペースに事務部、看護部、入退院調整部門、健診室、医局、病院幹部室の複数部署を配置したことは、部門間のコミュニケーションを格段に良くすることに繋がりました。また、応接セットやミーティングテーブルが3カ所に配置されており、打ち合わせや会議、勉強会などの柔軟な使い方に対応出来るようになっていました。旧病院では、打ち合わせの日程調整をメールで行い、当日は電話で連絡をとる必要がありましたが、複数の部署をワンフロアに集約したことで、その場で直接声かけをして会議を行えるようになり、時間や作業のムダを削減出来ました。

ガラス張りの医局と病院幹部室は一目で在室が確認出来るため、急な決済もスムーズになりました。医局も隣接しており、事務部や看護部との調整もスムーズになっています。時折、病院長が点てるお抹茶を頂きながら、和やかに打ち合わせをすることもあります。

多職種からなる病院において、複数の部署が集約された「共有フロアー」の設置は職員間のコミュニケーション強化に繋がり、今後更なるチーム医療や多職種連携強化に期待しております。



今回の新築移転は「ハード面」での勤務環境が大きく改善されました。今後は「ソフト面」での充実が働きやすい病院の課題と捉え、勤務環境改善支援センター（福井県医療の職場づくり支援センター）と相談しながら改善していきたいと考えております。



複数の部署が集まっており、部署間の壁（意識）が低くなった。打ち合わせも頻繁になり生産性が高い（↑）（←）

左手は病院幹部室、奥に医局。応接セットやスタンディングデスクテーブルにて打ち合わせ等を行っている（→）

